

令和7年度（第64回）農林水産祭むらづくり部門受賞団体の概要 【農林水産大臣賞】

1 受賞団体：石畳地区〔愛媛県内子町〕（会長 寶泉 武徳）

2 むらづくりの背景・動機

石畳地区は、総人口216人で、内子町中心部から北西に約12km離れた、標高200～350mの中間農業地域に位置。

昭和62年に20～40代の12名の有志が「石畳を思う会」を結成し、営利を求めるのではなく、将来世代への投資として活動が続けている。

平成2年にはメンバーが労力と資金を提供して水車小屋を復元し、水車祭りを開催。祭りは自治会とも連携し、毎年少しずつ規模を拡大している。

平成14年及び平成24年には、10年後の地域を見据えた「石畳地域づくり計画書」を策定し、従来の保全活動を発展させた地域づくりの目標を設定。この計画を踏まえ、平成21年には「企業組合石畳むら」を、令和2年には「(株)石畳つなぐプロジェクト」を設立。

令和7年度から農村RM0事業を活用して新たな将来マップを作成し地域全体の発展を目指している。

3 むらづくりの内容

（1）生産面における取組状況

栗の生産量が町内で最も多い石畳地区では、若手農家7人が栗のブランド化を目指し、農薬を使わずに樹上完熟栗を栽培し、厳しい選果で高品質な栗を生産している。さらにクラウドファンディングを活用した加工・販売により、地域の稼ぐ力を向上。

企業組合石畳むらは、土日に蕎麦屋を運営し、地元産の蕎麦を活用したメニューを提供。

（2）生活改善の取組状況

石畳自治会、石畳を思う会、石畳つなぐプロジェクトの3つの組織が連携し、地域課題の解決に取り組んでいる。

石畳を思う会が景観・伝統文化保全活動を担当し、企業組合石畳むらと(株)石畳つなぐプロジェクトが観光や特産品のブランド化等事業活動に取り組み、これらに石畳自治会が連携して、むらづくりを進めている。自治会は各世帯からの会費に加え、町の交付金（材料費8割支給）を活用して運営。水車や屋根付橋等、源流域の里山景観を、できるだけ補助金に頼らない形で、地元住民の自発的参加により保全活動を行っている。

現在、水車祭りは地域住民140人がスタッフとして参加し、集落外から800～1000人が来場するイベントとして成長。このほか、地元の空き家を移築して「石畳の宿」を整備し、女性中心の運営で精進料理を提供し、外国人観光客も受け入れている。